

# 地域支援だより

群馬県立前橋高等特別支援学校 支援推進部

No.1 令和3年9月発行



## 地域支援だよりの発行に当たり…

虫の音が心地よく響く、清涼の季節を迎えています。1学期は、大変お世話様になりました。訪問先での先生方や生徒たちの出会いを通し、アドバイザー自身も大変勉強になる貴重な時間をいただいています。実際に教育実践を繰り広げる先生方は、なかなか変容が見られない生徒を目の前に、苦悩されることもあるかと思われます。そのような中でも、先生方や生徒たちの良い変容ぶりに出会うことがあります。第3者として関わるアドバイザーであるが故に、感じ取ることができるものでもあるかもしれません。

先生方や生徒たちの良い変容の様子等をお便りの中で共有させていただき、さらに先生方の教育実践に活用できる一助となればと思い、地域支援だよりの発行にいたしました。お便りの中では、特別支援教育に係る情報提供もしていきたいと思えます。特別支援教育の視点から必要と思われるエッセンスをみなさまにお届けできたら幸いです。

## 2学期もスタートしました！



2学期がスタートし、まもなく1ヶ月が過ぎようとしています。各学校の生徒のみなさんの様子はいかがですか。すでに、長期休業後の生活の乱れから、学校生活にも影響が出てしまっている生徒たちも見られるかと思われます。

1学期に身に付けることができた習慣も、長期休業を経ると元の木阿弥となってしまうことは、特別支援学校においてもよく見られます。そのようなときには、2学期がスタートしたところから、もう一度、行動調整をしていきます。

各学期始めに、LHR等を活用しながら、各生徒が目標を書くことがあります。その際に、前学期の振り返りをする項目を追加します。「自己の行動を振り返る」ことは、特性のある生徒の自己理解にも繋がります。自身で自己の行動分析をする体験を積み重ねることはとても大切です。自身で考えたことは、書き留めるようにすることもポイントです。記憶支援になります。

例えば、下記の手順で進めてみます。

- ① (前学期の振り返り) どのような行動をすると物事が上手く進みましたか。
- ② (前学期の振り返り) どのような行動をすると物事が滞ってしまいましたか。

※前学期の自身の行動を振り返り、できた行動に焦点をあて、次の目標を考えます。

「〇〇すると、物事が上手く進まなかった。〇〇するようにすると、物事が上手く進んだ。」

- ③ 今学期の目標を考えよう！
- ④ 今学期の目標を達成するために、どのようにするのかを考えよう！

※上記の文言はあくまで例です。実際に作成される場合は、文言はお好きなように変更可能です！

※④にて、どのようにするのかを書き込む際は、「〇〇する」と肯定文で書き留めるようにすることもポイントです。肯定文で記載することにより、行動に移しやすくなります。さらには、日頃から、肯定的に物事を考える習慣を身に付けることにも繋がります。支援する側も同様です！

上記の手順でプリントを作成し、特性のある生徒のみならずクラス全体に活用するとよいです。日頃から HOW「どのようにしたらよいのか」という問いかけに生徒たちが慣れるようにすることが大事です。HOW「どのようにしたらよいのか」という問いかけに答えることができるということは、次の行動に移せる方法を自身で考え、言語化ができる力に繋がります。その思考方法は、人生を切り拓くために、必要な方法です。生徒全員に身に付けて欲しい生きる上で大切な思考方法でもあります。

特性のある生徒には、時折、チャンス相談的に呼び出し、自身が言語化した目標とその達成方法を確認することが必要となります。本人が意識化できるようにするためです。本人が実行し、物事がスムーズに進んでいる場合は、ほめほめシャワーで対応していきます。誉められた喜びが、本人の自己肯定感を育て、さらに前進していける力となります。

本校の生徒も、HOW「どのようにしたらいいですか」という問いかけに、とても弱いです。すぐに答えることができません。だからこそ、日頃から HOW を用いた問いかけをすることが大事です。どのようにしたら良いのかを自ら考え、それを言語化し、実行できる生徒の育成に努めます。

長期休業中も定期的に登校するようにするなど、本人の生活をチェックできる時間の確保ができると思いますが、なかなかそのような時間を設けることも難しい場合もあります。該当生徒が部活動や補習等で登校予定があれば、そのような時間を活用し、チャンス相談的に本人との対話を設け、生活における自身の課題を繰り返し確認することにより、次の学期をスムーズに迎えることのできる予防策にもなります。

最後に特性のある生徒と関わる上で大切なポイントです！

「焦らずに、一步一步です！」

特性のある子供たちは、失敗を繰り返します。失敗があるごとに、一つ一つ対応、繰り返し繰り返し、これでもか！！と思われるほど指導支援を継続していきます。継続していく中で、あれ？変化している？とお気づきになれる場面に出会えるときが必ずやってきます。

“Rome was not built in a day.”「ローマは1日にしてならず」という諺があります。

「特性のある子供たちとの教育実践も1日にしてならず」なのです。とことんお付き合いすることにより、特性のある子供たちの成長のみならず、先生方の力にもなります！そして、特性のある子供たちのご家族の幸せにも繋がるのです。時を要しますが、これからもともに、邁進していきましょう！

## 特別支援の

## 窓から



5月に、高校2年生のA男さんに出会いました。課題提出ができず、やっと進級ができた状況でした。時折自身の都合で欠席することもあり、先生方が大変心配していました。

A男さんが考えた第1目標は「3年生に進級をする」でした。そのためにどのようにしたら良いのかを考えました。その一つが、「手帳を活用する。」でした。該当校では、NOLTY手帳を全生徒に配付しています。担任の先生が時折、A男さんの手帳を確認、誤字脱字の訂正等の言語指導も取り入れ、関わっていただきました。A男さんは、言語力に少し弱さが見られていました。2ヶ月後、自身を振り返りました。手帳を確認すると、A男さんは週によって、自己目標を自ら記入する様子も見られていました。1学期は中間・期末と課題提出も全て済ませ、成績は不振科目0という結果を自身で生み出すことができました。達成感に繋がったのでしょうか。顔つきに変化が見られました。どことなく自信がついたそんな表情をしていました。人の心は表情に表れることを改めて感じました。自己管理能力を高めることができたA男さん、担任の先生のA男さんへのサポートが実った1学期末となりました。ありがとうございます！2学期もファイトです！